

森林レンジャーがゆく

くちばしから鳥の主食を推測する

早朝の冷え込みが緩み、山のスギの木が赤茶けてくると、花粉症10年目の私は身構えてしまいます。あのパンパンに膨らんだスギの雄花は本当にいまいまして、今にも条件反射でくしゃみが出てきそうです。

実はあのスギの雄花をついばむ鳥がいます。それは同僚のパブレンジャーがいつものように奥山で調査しているときのことでした。数羽のマヒワが枝の先端に止まり花粉の詰まった雄花をついばんでいたとのことです。通常マヒワは、植物の小さなタネを主食にするとされていますが、どうやらスギ花粉も食べることがあるようです。もし、マヒワの大群が次から次へとスギの雄花を食べる場面に遭遇することができたら、少しは花粉症の症状も和らぐのではと楽観的な空想をしてしまいます。

今回、マヒワがスギの雄花をついばむことを紹介しましたが、鳥の仲間は実にさまざまなものを食べています。例えば、冬期、秋川沿いの雑木林で観察することができるシメは、ハリエンジュの実などを食べています。シメのくちばしは分厚くニッパーのような形状なので、他の鳥が

食べることができない植物の固いタネを簡単に割り、食べることができます。また、畑や草原など開けた場所にいるモズは、昆虫やカエルなどの小動物を鋭いカギ状のくちばしで仕留めます。それだけではなく、ネズミや他の鳥といったサイズの大きい獲物を仕留めたときには、その鋭いくちばしで肉を引き裂きついでみます。

このように鳥のくちばしは種類によって形状が異なり、使い方が違ってきます。くちばしから鳥がどのようなものを主食としているのか推測することができるのです。いろいろな鳥のくちばしに注目したバードウォッチングをしてみると意外な発見をするかもしれません。

(佐々木)

